

馬放

## 農地・水・通信

第14号

発行日：平成26年5月31日

<http://www14.ocn.ne.jp/~mahanasi/>

平成24年度から新たに農地・水保全管理活動が始まりましたが、26年度より「多面的機能支払」と名称が変わりましたので、馬放地区でも多面的機能支払への移行に伴う活動の申請をしているところでございます。活動の内容はこれまでの活動とほぼ同じでございます。

農地・水・通信も14号となりました。この一コマを振り返りながら、これからの活動に積極的に参加しましょう。

## 美しい馬放をみんなで守り続けましょう!!

3月23日 25年度総会開催

## 25年度の主な活動

25年度の事業報告、決算報告、26年度の活動計画、予算など話し合われました



6月9日	草刈	39人
6月9日	草取り	24人
6月23日	生き物調査	33人
6月23日	植栽	44人
7月21日	草刈	41人
7月21日	草取り	30人
7月28日	かかしづくり	81人
8月11日	生き物調査	25人
9月14日	草取り	9人
9月16日	草刈	34人
12月8日	勉強会	46人
H26年3月9日	農道整備	37人
3月23日	総会	28人

今年度から新たに5年間の活動となります。  
皆様のご協力、積極的な参加をよろしくお願いいたします

9月9日 機場点検



1年間頑張ってくれたポンプに来年も故障しないで働いてくれるようにと、お礼を込めて点検と清掃を

9月16日 草刈り

雨のため1週間延期に、しかしこの日も雨!!  
参加者は34名



雨の中での作業は大変です。  
ケガにはくれぐれも注意をして  
下さい。



ア～ア 疲れだなあー。もうひとがんばり!!  
草刈り1週間延びていつするの? 『いまでしょう!』

10月30日 あぜ刈り機清掃



機械の整備・点検も大切ですね。  
こういう地道な作業もあるんです。  
さあ、点検 OK かな！

11月17日 役員会



今日の内容は勉強会  
についてです。  
どうでしょうか



12月8日 勉強会

古川農業試験場 作物保護部虫害制御班の  
上席主任研究員 加進丈二様を講師にお迎  
えして「田んぼの生き物」についてご講演  
をいただきました。参加者46名



真剣に講師の先生のお話にも目と耳  
を傾け勉強中です



## 講演内容

田んぼには植物2280種、動物2791種、原生生物  
藍藻類597種 合計5668種の生き物がいます。

両生類 カエルの仲間や田んぼに多くいるトンボの  
仲間、水中の生き物（ミズカマキリ、アメンボ、マツ  
モムシ、ヤゴ、コオイムシ等）、稲を食べる虫（害虫）  
イネドロオイムシ、イネミスゾウムシ、イネアオムシ  
カメムシ等の幼虫、成虫やその虫たちの発生によって引き起こされる被害の状況、  
またこれらの害虫を食べる天敵もたくさんにいます。田んぼの周りにはたくさんの  
植物があり、チョウの仲間は植物と関係が深いこと等今まで私達が何気なく見過  
ごしてきた田んぼの生き物のつながりを詳しく教えていただきました。そして田ん  
ぼの役割は美味しいお米を作るために、稲を育てるところ。

その他に①地下水の供給源 ②気温の変化を抑える ③生き物を育てる ④農村  
の景観を守るなどの働きがあります。したがって田んぼの生き物を守るために誰で  
もできることは何なんだろうと考えたときに、田んぼがなくなると生き物の生態が  
変わり、食物連鎖に異常をきたし、人間にとっても住みにくくなっていく。ご飯を  
食べることによって、田んぼの生き物を守ることもつながるので、皆さん宮城で  
つくられた美味しいお米をたくさん食べて下さいと結んでいただきました。私達大  
人や子供達にもわかりやすく丁寧にお話をして下さいました。



## 講演を聞いた感想を一言

### 田んぼの生き物の話を聞いて

初めに田んぼとは、何をするのかと考えると、稲を育てる事しか頭に浮かばな  
かったが、その他いろいろな働きがあると話しを聞いて改めて知りました。

その中でも、生き物の住み家となる大事さが非常に高い事を知りました。

5,668種類の生き物が生存している多さにも驚きました。

このすべての生き物は、自然の中ではつながりながら生きているとの事、田んぼ  
にとっては害虫でも、自然のサイクルの中では必要な生き物であるという事を感じ  
ました。

このような自然の生き物を守るために、誰にでも出来る事が何かと考えた時に米  
を沢山食べることが稲をたくさん作ることに繋がると思いました。

最後に、人も自然の生き物といかに共存できるか考えさせられる話でありまし  
た。

渡 辺 清 一



講師の先生からも一言



田んぼで害虫を観察していると、彼らはクモの巣のワナにかかっていたり、水面に落ちてアメンボに襲われていたり、葉っぱを食べて大きくなったアオムシの体からハチの幼虫が這い出してきたりするのを目の当たりにすることがあります。このような自然の働きによる“防除”はとても多様であり、害虫も田んぼの生態系の一部であることを改めて実感します。みなさんが行ってきた生き物調査でも、そのようなことを感じ取った子供たちは多いのではないのでしょうか。これからも、ぜひ活動を続けていってください。

宮城県古川農業試験場作物保護部 加進丈二



ん！最高。  
うまいね～。  
皆さん、とても  
美味しく  
いただきました  
ごちそうさまでした



2月16日 機能点検

今年の機能点検は、雪が邪魔してほとんど点検ができなかったのですが、仕切り直しでしたが、それでも機場（パイプライン）と防草シートの確認だけしました。



3月2日 機能点検



泥はそんなにたまっていないし、大丈夫だね。  
道路は相当傷んでいるね。  
デコボコがいっぱいあるもの。

3月9日 農道整備と開水路の泥上げ



農道整備には欠かせないこの重機。  
本当に助かります。



ここのクボミに敷いてと。  
こっちもだね！  
雪もあって大変でした。

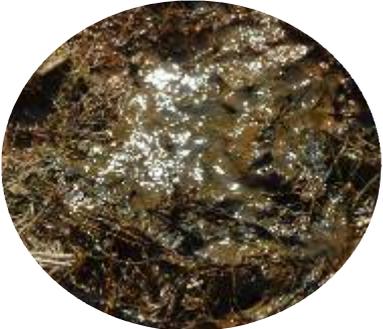


砂利敷きの様子



泥上げの様子  
ものすごく大変な作業でした・・・

水がスムーズに流れるようになりました



あげられた泥  
(ヘドロ)



春先のこの作業は本当に  
つかれるね～。



土嚢袋に土入れ！手順もよくどんどん積み上がっていく土嚢袋

3月15日 役員会



私たちも応援しています



総会に向けて



「農地・水・通信」から学ぶこと

馬放「農地・水・通信」も創刊以来第14号発行となりました。これまで編集に関わった役員の皆様、特に伊藤会計さんにはプロ並みの企画・制作で紙面を見るのが何よりも楽しみとなりました。後世に残す記録として大切に保管することも大事ですが、この通信を通して、自分たちが関わりを持つことの意義を再認識し改めて確認してほしいと願う者の一人です。決して難しいことではありません。時には茶の間で通信を開くことから始まれば・・・ある時は、子供・孫たちを囲んで、誰が何を何のために？問いかけ次への期待感を持てれば。そしてある時は隣近所同士でお茶を飲みながら時代を超え子供のころの状況を思い起こすことも？そんな光景が自然にかもし出されれば地域のコミュニティーも生まれ変わってくる感じも致します。

圃場整備や道路・河川等のインフラ整備事業推進により、生活環境が大きく変化し、便利さからくる豊かさを肌で感じている人がほとんどでしょう。「生き物調査」で大人が感じ取ることと、子どもたちが感じ取ることのギャップは大きく、正しい生態系の在り方をこの調査で教え導いていくことができれば、生きた教育にもなると思います。案山子コンクールも定着しつつあり、子供たちの感想発表会なども実現できたら！今こそ創意と工夫で！

イモリ・沼ビル・ギンギョ・ゲンゴロウ・カツカ・スナメグリ他・で育った  
k・大場

## 26年度の主な活動計画

月 日	活 動 内 容	開始時間
4月中旬	パイプライン機能点検	
6月8日	開水路・農道草刈	6:00
6月8日	草取り	8:30
6月15日	植栽	8:30
6月22日	第1回生き物調査	8:30
7月中旬	開水路・農道草刈・花壇の草取り	
7月下旬	かかしづくり	
8月中旬	第2回生き物調査	
9月上旬	開水路・農道草刈・花壇の草取り	
11月中旬	施設の点検	
11月下旬	植栽	
11月下旬	農道整備・農用地法面補修技術研修	
2月下旬	勉強会	
3月下旬	総会	

※必要に応じて役員会、施設の点検を行います

皆様のご協力よろしくお願いいたします